

令和4年度第2回 伊勢市地域福祉計画推進委員会 結果概要

開催日時 令和4年11月16日(水)午後2時00分～午後3時50分
開催場所 伊勢商工会議所4階 中ホール
出席委員 鵜沼 憲晴委員、小林 初美委員、小野田 弥生委員、松村 まち子委員、
加藤 好美栄委員、三川 隆委員、泰道 詞子委員、中居 美幸委員、前島 賢委員、
角谷 克己委員、植村 法文委員
欠席委員 秋山 則子委員、立松 浩明委員
事務局 伊勢市：健康福祉部江原部長、辻村次長(福祉総務課長)、
小林参事(福祉生活相談センター長)、岩佐参事(子育て応援課長)、
健康課浦田課長、高齢・障がい福祉課奥野課長、生活支援課濱口課長、
保育課堀川課長、介護保険課森本課長、市民交流課浅倉主事、
福祉生活相談センター田代係長、中村係長、畑主査、服部係長、谷本、伊藤
伊勢市社会福祉協議会：前村局長、中森課長、竹澤副参事、藤原係長、野中センター長
傍聴者 なし

1. 委員長、副委員長の選出

委員から事務局の提案を求められたため、委員長に鵜沼委員、副委員長に小林委員を提案し、了承される。

2. 第4期伊勢市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定について

(1) 策定にかかる状況・策定方針について

第4期伊勢市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定について、これまでの経過、策定にかかる状況、策定方針等を記載した資料に沿って事務局より説明。

【委員から意見等】

○課題を抱えていても相談を受けるのは稀で、信頼関係を作り上げていくうちに分かることがある。また地域の方でも気づいていてもどう関わっていいかわからないといった声もある。コロナの影響としては、施設でもオンライン面会となっているが、高齢者にはふれあいに欠けるように感じる、コロナ禍においては致し方ないが、少しずつでも変えていけたらと思っている。

○コロナによって今までできていたアセスメントが全く違う方法になり、それに適応してきた3年間であった。また、集いの場の減少もある。ある地域で体操しながら集まる機会を作る取り組みを始め、少しずつ参加者が増えてきたところ。分野横断的、重層的という説明があったが、現場としてはどう取り組めばいいのか。

○障がい分野においても、コロナの影響は大きく、相談件数は日々増えており、相談内容も複雑化している。不登校からのひきこもりなど、若い世代の問題も増えてきている。相談したくて

も相談できない人への支援が課題と感じている。

障がい分野は介護保険に比べ、資源が少ないように感じている。開発していく必要性を感じている。重層的支援体制整備事業が始まり、支援者が集まって話し合う機会ができ、心強く感じている。

○本人、家族のコロナ罹患により障がいサービスを受けられなくなったり、新規利用がストップして新たなサービス利用ができない状況があり、コロナの影響は続いている。障がい児では、休校になったことをきっかけに不登校になった問題も起こっている。

8050 問題への対応として、包括支援センターからの紹介を通じ、ひきこもりであった方が、親なきあとを見据え社会に出ていく機会を持ってきたケースが増えてきた実感がある。

○学校においてもコロナの影響を受け、これまで実施していた地域の高齢者との交流活動を中止せざるを得ない状況となっている。

○コロナにより休止していた活動も3年目にして漸く、人数を減らすなど工夫しながら再開しつつある。まちづくり分野においては、後継者、リーダーがいないことが課題と感じている。スマートフォン、インターネットに不慣れな高齢者に対する情報伝達の方法を検討していただきたい。また地域で活動していても周知が足りないように感じる。

○保育園では、コロナ禍で子ども達の体験の機会が失われたことが大きい、保護者同士の交流も無くなり、孤立感を生んでしまっていないか危惧している。保育園には子育て支援としての役割もあり、どこに相談していいのかわからない相談を受けることがある。計画に盛り込む事項として分野横断的という言葉が多くあるのはありがたい。SOS に気づき適切な支援に繋げて見守っていききたい。

○地域の活動でも、高齢者会食会など活動の機会が減っている。

○ボランティア活動でも、施設への訪問ができない状況もあるが、各団体で工夫しながら活動を続けている。高齢者の生活支援としては、ワクチン、給付金の申込みが課題と感じている。

○気づいて繋ぎ見守ることで、様々な課題を抱えた人を支えることになる。そのためには重層的な支援、関係機関との連携を深めることが大切。地域の中でも民生委員、自治会、他の活動団体と関係を密に地域の力を高めることになる。

(事務局回答)

○現場で活動している方の気づきは大変ありがたい。行政としては、その気づきを相談できる体制を整え、その相談を確実に支援に向けて動き出すのが役割と認識している。関係機関との連携を深め、実現していくよう第4期計画に反映していきたい。ご意見いただいた点につ

いて第4期に反映していきたい。

○コロナ禍で生活困窮の対応も行ってきたが、今後は生活再建においても支援を考えていく必要がある。複雑化・複合化している課題への対応には、それぞれの相談体制の強化が求められていると感じている。第4期に反映していきたい。

○支援を必要とする人は、行政だけでなく、地域の民生委員、ボランティア、事業所などの協力があって初めて支えることができる。計画を立て、様々な取組をしていくことになるが、地域の支え合い体制を広めていきたい。引き続きご協力をお願いしたい。

(2) 策定スケジュールについて

質問・意見は特になし

(3) アンケート調査について

【委員から意見等】

○対象者、件数は？

(市回答) 市内にお住まいの方を対象に3,500件

○高齢者、障がい者が回答しやすいよう配慮してほしい。

(市回答) 対応方法を検討します。

3. その他

○保健福祉拠点施設について説明

○次回会議は、令和5年3月の予定。詳細は決まり次第連絡する